

# 柏樹

宇 会長  
南 勇  
川口市退職校長会  
会報 第20号  
令和2年2月1日

## カラオケ備忘録

渋井和夫



新しい時代、令和を迎え、この春先から何となく晴れやかに

自ら事をなす気持ちでカラオケライフを楽しんでいます。歌うことは言うなれば心のリフレッシュと健康増進に役立つ最高の趣味です。特に息を吸ったり吐いたり繰り返す行為は喘息持ちの私にとって、それだけで呼吸機能の衰えを防ぐ大切なメソッドだと思います。そもそも私がカラオケ、特に演歌にのめり込んだのは、教職をリタイアした直後に演歌専門の先生に出逢えたことでした。これぞ演歌という神髄をこ

と細かく伝授していただきました。当時流行っていた歌に離ればなれの家族の絆を唄った天童よしみの「珍島物語」をはじめ、高音部に高い歌唱技術を持つ民謡歌手だった成世昌平の「はぐれコキリコ」もよく唄われ古き良き時代を懐古する歌がカラオケでモ

テていました。そんな中、古めかしい股旅演歌で「箱根八里の半次郎」で颯爽と

登場したのが氷川きよしでした。たちまちのうちに「きよしブーム」を巻き起し女性ファンや子ども達から支持され、さらに年寄り世代までも虜にしました。なお、若い女性の人気の楽曲と言えば、石川さゆりの「天城越え」を挙げねばなりません。今でもカラオケ人気曲として歌い継がれています。

次に、カラオケを楽しむコツとして、鼻根の歌手を数人は持ちたいものです。どのプロ歌手も、デビュー前には相当年数、師匠の先生から厳しいレッスンを受けて、これで商品価値があるものと認められて初めてお客の前で歌うのです。彼らは歌い出しから「おっ」と思わせるような素晴らしい調子で、歌詞の余韻が聴く者の心に響く歌唱を送ってくれます。さりげなく歌っているように聞こえますが「いいね」と感じ入りサビの部分の高揚感が印象強いものになります。だからどの歌手にも私は自然とリスペクトしたくなるのです。最後に私のカラオケ練習法を紹介します。普通の人は、いわゆる「耳コピ」で歌手の音声に自分の声をかぶせて唄うようです。私は高い音楽素養が

あつて楽譜がスラスラ読める訳ではありません。それでもそれを併用し手垢で汚れ、譜面が擦り切れるまでにらめっこして、楽譜に記された音符から作曲者の意図を感じ取り、それを歌唱のヒントにしています。更に歌唱力の向上に努め、人前でも臆することなく唄えるように精進していきたいと思えます。

## 名言に支えられて

佐藤修



今年の誕生日で古希を迎えた。古希の典拠は、中国の詩聖杜甫の「酒

債(酒代の付け)は尋常行く処に有り人生七十古来稀なり」の句に因んでいる。酒の付けができる店と70歳が稀と比べているところが面白いが、現代では70歳まで生きることが珍しくない。亡くなった同級生も数えるほどである。それでも人生70年を振り返ると様々なこと巡り合った。

老子は、これを「禍福倚伏」と称した。老子58章に「禍は福の倚る所、福は禍の伏す所」と書かれており、慣用語の「禍福は糾える縄の如し」と同義である。一昨年一人息子の妻が3人の子どもを残して病気で亡くなり、3人

の孫を残されて、生涯で最大の禍を味わった。失意に打ちひしがれていた時、本を読んでいて江戸中期の儒学者、中根東里の「出る月を待つべし、散る花を追うことなかれ」という言葉に出会って、ずいぶん前向きに考えることができるようになった。それ以来、孫に對しても明るく接していくことができるとなるようになったと思う。この言葉には本当に感謝している。

現在は、妻と息子と3人の孫の6人家族で賑やかに暮らしている。妻と2人暮らしの時は、のんびり生活していたが寂しく思うこともあった。私が幼少の頃は、祖父母と両親、7人兄弟の11人家族で暮らしていた。6人家族になったのも運命と感ずることもあった。孫の世話で出かけることもかなり少なくなったが、少しは家族のために役立っていると思う。

孔子は、論語為政篇の中で、15歳の志学、30歳の而立から10年ごとに不惑、知命、耳順と続き、最後に70歳で従心と言っている。法律を犯さない範囲で心の思うままに従い、今後の人生を前向きに明るく生きていきたいと思う。そのためには、健康第一を大切に、毎日の散歩を続けたいと思う。

また、読書を多くすることで、想像力を働かせ未知の世界を楽しみ、今後の人生を有意義なものにしていきたいと願っている。

## 「ちよつと」といい話

### たかが卓球、されど卓球

竹内 良雄

学生時代に経験し、中学校の部活顧問をしていた卓球を、30年ぶり始めて7年がたちました。卓球の良さは、①個人競技なので、仲間に迷惑をかけない。②相手と接触しないので、体力・体格差の影響が少ない。③健康増進に役立つとともに、脳の活性化につながる。(卓球は、百メートルを全力で走りながら、チェスをするようなものだとわわわわわわわわ)。さらに、前歴や年齢に関係のない新しい人間関係を作ることが出来ます。

当初は、近所の公民館の卓球サークルに入会し、同世代の仲間と汗を流していました。だんだん欲がでてきて、ラリーを続けるだけでなく、試合にも参加するようになり、昨年は60試合に出場しました。

ところで、私が参加しているのは、一般のトーナメント形式ではなく、年齢別やランク別(技量によりA〜Eランクに分かれており、私はBランク)に7〜8人でのリーグ戦形式の試合が中心です。そこには、大体同レベルで同年齢の人との対戦となるため、試合では、少し頑張ると勝てるが、調子が

悪いと負けてしまうという具合で、ワクワク、ハラハラ、ドキドキといった適度の緊張感を楽しんでいます。

多くの大会に参加している中で、一番印象に残っていることは、3月末に東京で開催された全国教職員ベテラン卓球大会(参加資格は、教職員15年以上60歳以上)です。この大会に、埼玉県チームの一人として出場し、団体戦で初出場優勝を達成しました。また、大会は硬式とラージボールの部門に分かれており、私たちはラージボールの部に出場しました。ラージボールは、ボールの大きさが硬式より4ミリ大きく(44ミリ)、重さが0.4グラム軽く(2.2グラム)、ネットの高さは、2センチ高く、17・22センチです。硬式に比べてボールが軽く大きいので空気に抵抗を受け易くなります。そのためボールのスピードが遅く、回転も少なくなるので、強く打つても、しっかり動けば返球が容易で、ラリーが続き易いのが特色です。硬式に比べて競技人口が少なく、そこに目をつけ、参加した訳です。試合は、2シングル、1ダブルで、2点先取で勝負がつかます。私はダブルスに出場しました。メンバーに恵まれ、予選リーグを1位で通過し決勝ちトーナメントを勝ち抜き、優勝することができました。

今後の夢は、ラージボールだけでなく、硬式での全国大会優勝です。

### たくさんの笑顔のために

小沼 和美

縁あって南平幼稚園の園長をさせていただく機会に恵まれました。幼稚園には日々「ちよつと」といい話や「とてもいい話」が溢れています。

幼稚園の先生達はとても楽しそうに保育の準備をします。台風15号が過ぎ去ったあの日も、猛暑の園庭で、明日からの練習開始に備えて運動会用のラインを引いていました。汗だくになりながらも、どの教員も生き生きとしていました。園児の喜ぶ顔が目につかぶのでしよう。

次の日、登園してきた園児は、ラインが引かれた園庭を見て目を輝かせています。運動会の練習「運動会、ここ」のスタートです。昨年の運動会の記憶がある5歳児は、ラインを使ってかけっこやリレー遊びを始めました。砂場で遊んでいた4歳児の中には、「何やってるんだらう」と興味を示す子も出てきます。

9月の誕生会で、先生たちは「ヤングマン」のダンスを披露しました。幼稚園の先生の演技力やサービスピ精神は芸人並みです。子どもが喜ぶと一層張り切ってしまうのが、教員の性だどつくづく感じます。「先生たちかっこよかった」「踊りたい」と、ダンスへの関心が更に高まります。

今年の演技曲が決まると5歳児組の

担任は「ジャニーズみたい」と声をかけ、子供たちの気持ちを盛り上げます。

5歳児クラスの担任は、5歳児のダンスを見ることができるよう保育環境を意図的に準備します。好きな遊びの時間に5歳児が躍っているのを見て、4歳児も「やりたい」とかけ寄り、一緒に踊る子も出てきます。踊りに関心のなかった子も、遊びの手を休めて注目しています。保育室では楽しそうな曲に合わせて、担任と一緒にダンスを楽しんでいます。担任は子ども達の思いを大切にしながら、徐々に運動会に向けて気持ちをなげいていきました。

迎えた運動会の当日、多くのこ来賓やご家族が笑顔で応援する中、自分達で作った自慢の衣装を身に着けて、どの子も満面の笑顔で演技することができました。

このように、南平幼稚園では、理想的な幼稚園教育が展開されていると胸を張るものの、幼稚園経営は、「ちよつと」といい話だけでは済まないのが現実です。幼稚園の無償化が始まり、公立幼稚園の園児募集状況は、厳しくなる一方です。

何人集まるか不安を抱えながら、入園願書を出しに来られた親子の姿を見送りながら、「あのような親子をもつと笑顔にするためにも頑張ろう」と自分自身を叱咤激励しました。かわい

学校に行く意味・休む意味

柴田 宏之

退職後は、休日の映画鑑賞が一番の楽しみです。この夏、『風をつかまえた少年』という映画を観ました。

当時の電気普及率2%というアフリカの最貧国のひとつであるマラウイを大干ばつが襲います。14歳の少年ウイリアムは貧困で学費を払えず通学を断念しますが、図書館で出会った1冊の本をきっかけに、独学で風力発電のできる風車を作り、畑に水を引くことを思いつきます。そして、困難を乗り越え自家発電に成功して村を救います。実話に基づく感動的な映画で、教育の力について考えさせられました。

最後の在任校で、学校公開日にふれあい映画会を開催したことを思い出します。『世界の果ての通学路』という映画で、ケニアのサバンナをはじめ、アルゼンチン、モロッコ、インドで険しい道のりを何時間もかけて通学する子供たちを追ったドキュメンタリーです。生徒たちは、世界の子供たちの姿から、将来の夢、家族の絆、学ぶ意味などについて考えてくれたようでした。

私は4月から市の教育相談員として、保護者の来室相談や適応指導教室の業務に当たっています。相談の多くは不登校に関するものです。昨年度の全国の不登校児童生徒数は16万人を超え過去最高を更新しました。不登校対策は大きな教育課題になっています。

不登校の原因は、本人に起因するもの、学校や家庭の環境要因など様々ですが、それぞれの子供の要因とは別に、社会的な要因があるように思います。前述の映画では、子供たちにとって「学校に行く意味」が明確でした。将来の仕事や生活にかかわるので、どうしても学校に行きたかったのです。しかし、今の日本では、これまでは当たり前と思われていた「学校に行く意味」が、時代や社会の変化の中で大きく揺らいできているように思います。

3年前には不登校の子供たちに学校以外の多様な学びの場を確保することを目的とする教育機会確保法が制定され、不登校増加に拍車をかけた形です。このような変化の中で、今後、子供たちが学校で学ぶ意味が問われています。

不登校対策の目的も、かつての「学校復帰」から「社会的自立」に変わってきています。不登校は、学校生活からのモラトリアムとも言えます。子供たちが自分を見つめ、自分にとって学校に行く意味を問う直すために必要な

時間なのかもしれません。「学校を休む意味」も考えながら、保護者や子供たちと向き合っていきたいと思います。

三十年の変わり様

奥田 昌史

奉職して数年、時間があるとへら鮎釣りを楽しんでいました。そのうちに時間も無くなり、いつしか足は遠のいてしまった。退職して3年が経ち、再び釣りを始めようとして戸惑った。仕掛けから浮き、餌まで釣りが激変していたのだ。仕方なしに、入門書を購入し一から始めた。当時のブランコと言われた浮きは無くなり、魅も練らずに使う。魚も大型化していて糸は切れられ、浮きや竿までも折られてしまう。それでも、時間の許す限り、道具作りに勤しみながら釣りを楽しんでいる。

30年でこんなにも変わってしまったのかと思いつつ周りを見回すと、通信・情報手段や買物物の仕方、気候まで世の中は変化している。

変化なのか進化的なのか気になってくることも有る。昨年から県教員養成セミナーの仕事に関わらせていただいた。来年度から実施される学習指導要領に目を通して見た。英語教育やプログラミング教育、道徳の教科化等

が話題となっているが、各教科の目標からして変化している。算数では、従来の目標は「算数的活動を通して・・・」と始まるが新学習指導要領は「数学的な見方・考え方を働かせ・・・」となっている。算数的活動という言葉は全く出てこない。他教科でも「見方・考え方」が前面に出ている。合理的な判断力も大切だが、それを根底で支える「真・善・美」といった感性も重視されてもいいのではないかと思ってしまう。目標は目的ではないのでまあいいかと思いつつも、指導要領の内容が平成10年のB5版のページ数の1.9倍にもなっている。働き方改革はどこへ行くのだろうかとも思ってしまう。ただ、この変化を進化へと変えるのも私たちなのかもしれないと案じている。

しかし、変わっていないこともある。釣りでは、底釣り等の釣り方や浮きの動きから釣り方を探ることも変わっていない。学校でも教室に黒板と掲示板、そして、先生の指導に一生懸命に取り組む子供たちの姿も昔と同じである。

目の前の子供の姿や行動への感性を磨き、子供理解が深まってこそその教育である。これからの教育を担う若人達に子供理解と教材研究という視点だけは伝えていきたいと思いつつ、思うようには動かない浮きを日々見つめて過している。

教育情報

再編統合2年目を迎えて

川口市立高等学校  
校長 井上清之

一 学校の概要

本校は平成30年度に旧川口市立3校の再編統合により開校し2年目を迎えました。旧2校を閉校せず、2、3学年の生徒が在籍したまま統合したため、校内には4種類の制服を着た生徒が混在した状態でのスタートとなりました。全日制課程は、理数科1学級、普通科11学級、定時制課程は総合学科3学級であり、全校生徒数は約100人、公立高校としては県内2番目の大規模校です。全日制普通科には3学級の文理スポーツコースと特進クラス3学級も設置し文武両道の進学校づくりに取り組んでいます。



市の3大プロジェクトの一つとして、最新鋭の施設設備面はもとより、人材配置においても川口市独自の施策を展開し学校づくりを支援し頂いています。現在は、令和3年度に開校する附属中学校の開設備が進められています。

二 特色ある教育活動

(1) 新たなタイプの進学校づくり

市民の教育ニーズに応えるべく、これまでとは一味違う「新たなタイプの進学校」をコンセプトに学校づくりを進めています。

① 文理分断からの脱却

3年次までは文系と理系クラス編成を行わず幅広い学力を身に付ける国立進学型の教育課程を編成しています。

② 理数科の設置

理数科では、お茶の水女子大学との連携をはじめ、埼玉大学 HiGEP Sプログラムや東京大学の高大接続プロジェクトへの参加、日本科学未来館、JAXA 筑波宇宙センターでの研修、市立科学館の活用、ハワイ・プナホスクールへの海外研修など本校の特色を象徴する教育を展開しています。

③ 自習環境の整備

生徒の自学する力を伸ばすために、自習室は、平日は朝7時半から午後8時半まで、土日も午後5時まで使用することができ、校内のいたるところに学習スペースを設け、部活動後も自学習できる環境を準備しています。



自習室には大学生チューターが常駐し、生徒の質問に答えてくれます。

④ 民間教育機関の活用

学校教育を補完するものとして、学習メンタープログラムや予備校が本校を会場に行う夏期講習など民間教育機関の力も積極的に活用しています。

(2) 川口市独自の人材配置

川口市では、CIR (国際交流員)、アクティブラーニング支援員、ICT支援員等、本校の教育を充実させるための人材配置を行っています。7名のネイティブ英語教員CIRは、四技能の向上に大きな効果をあげています。

(3) 大学や専門機関との連携

東京に隣接する立地条件を利用して大学等との連携を積極的に進めています。お茶の水女子大学、東京大学C.O.R.E.F、順天堂大学、東京理科大学等との高大接続を教育活動の充実に活かしています。

(4) グローバル人材の育成

夏季休業中にはCIRを活用して5日間のイングリッシュキャンプなどのプログラムを実施しています。海外派遣プログラムとしては、アメリカ・フィンドレー高校への長期留学、オーストラリア



短期派遣や市教委主催のバンクーバー短期派遣などの海外研修プログラムがあります。

(5) ICT環境の充実

ICT環境の充実も本校の強みの一つです。各教室にはプロジェクトが設置され教員はタブレットを持って授業を進めることで授業の効率化が図られています。その他にも空間Uイールムという最新鋭のシステムや、LMS(学習支援システム)を導入し家庭においてもデータのやり取りができるなどICTの効果的な活用も進んでいます。

本校は施設も教育内容も工事中の学校です。最新鋭の校舎に負けない川口市のリーディング校づくりに教職員一同、全力で取り組んでいます。

編集後記

柏樹第20号に玉稿を賜りました皆様  
に心より御礼申し上げます。

昨年12月に「学習到達度調査」いわゆるPISAの結果が公表された。それによると日本は「読解力」で前回の8位から15位に下がった。理由の一つに設問がデジタル化され、日本の教育のICT対応の遅れなども指摘されている。ICTの急速な進歩に教育がどのように対応していかなければならないのか。教育も更に加速度的に変わりつつあるように感じるこの頃である。(村田文男)